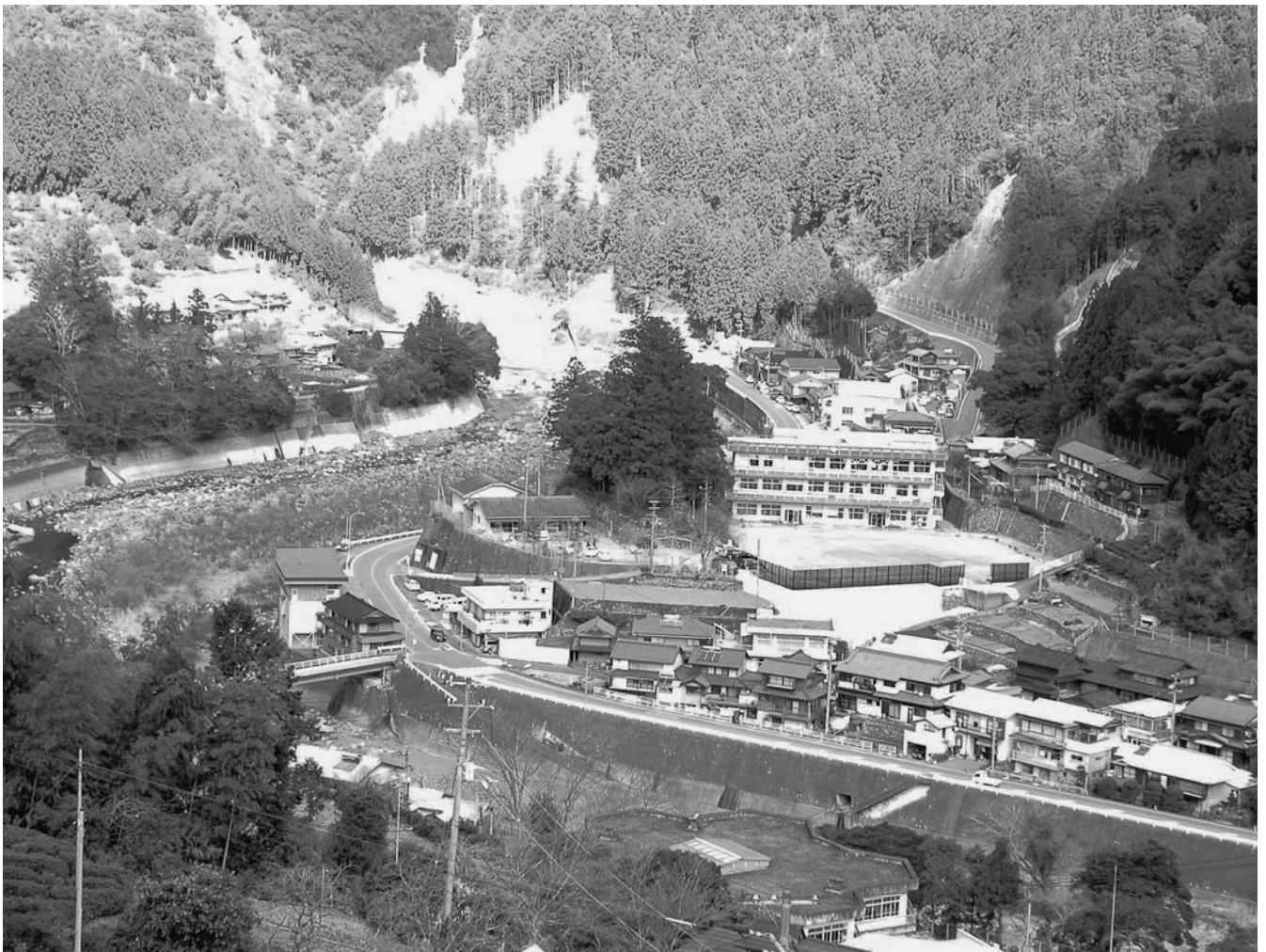




木沢村役場庁舎



役場周辺集落



国指定文化財「農村舞台」(坂州)



曼荼羅靈場結願所四国二十一番奥の院「黒瀧寺」



国指定文化財「タヌキノシヨクダイ」



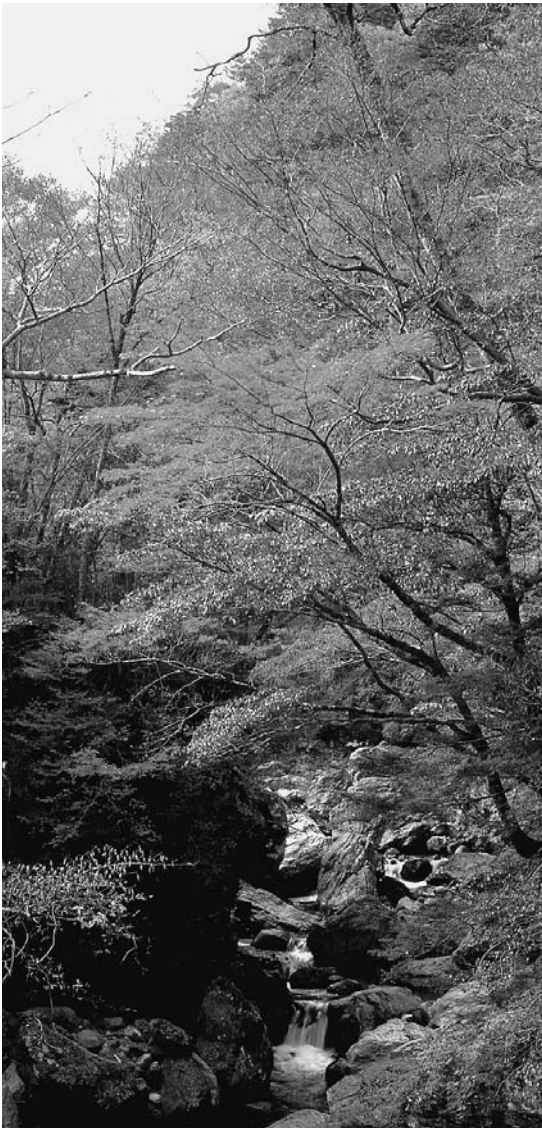
村の花「ササユリ」



大轟の滝



大釜の滝冬



奥槍戸



山の家奥槍戸



四季美谷温泉

平成16年 台風10号豪雨による斜面災害



写真1 阿津江地区の斜面崩壊（井内海俊撮影）

阿津江地区で発生した斜面崩壊の滑落崖を、阿津江集落からみた写真。写真の右上方に、加持久保神社がある。滑落崖には、厚さ5m程度の厚い角礫層が露出しており、地表面とほぼ平行に礫が配列しているほか、パイピング穴が確認できる。基盤をなす緑色岩は、滑落崖よりかなり下方に露出している。この厚い角礫層は、阿津江地区の馬蹄形を呈する崩壊地形の内部を埋積しており、古い崩壊堆積物と推定される。今回の斜面崩壊は、この古い崩壊堆積物が滑落した。



写真2 阿津江地区の斜面崩壊の土砂により埋没した符殿トンネル坑口（井内海俊撮影）

阿津江地区の斜面崩壊の土砂が坂州木頭川を一時的にダムアップするとともに、土砂は対岸の国道193号符殿トンネル坑口を埋塞し、対岸斜面を30mほどはい登った。写真の左端が埋没した符殿トンネル坑口であり、正面の湧水が見られる斜面が、土砂がはい登った後である。ここにかかっていた符殿橋（橋長125m）が流出した。写真は斜面崩壊発生の日（8月2日）に撮影された。



写真3 阿津江地区の斜面崩壊の上方斜面に生じた地すべりクラック (井内海俊撮影)

阿津江地区の斜面崩壊に関連して、滑落崖の上方斜面に、延長300m程度の地すべりクラックが生じた。クラックは、加持久保神社付近から北の斜面へ弧を描くように断続的に伸びている。写真は、黒滝寺境内へ向かう村道に生じたクラックであり、落差は約2m弱である。



写真4 大用知地区の斜面崩壊の全景 (石田啓祐撮影)

大用知地区の斜面崩壊は、木沢村で発生した斜面崩壊のうち、もっとも規模の大きなものである。地質はほぼ緑色岩からなり、ごくわずかに赤色チャートを伴う。稜線直下のほぼ同じ高度に滑落崖が二つ並んでおり、向かって左は角礫化した枕状溶岩（緑色岩）の風化部が滑落したもの、右は高角で交わる2本の節理に挟まれたブロックが落下したくさび崩壊の形態をなす。



写真5 大用知地区の斜面崩壊地の中腹に残存する土砂と倒木（石田啓祐撮影）

大用知地区の斜面崩壊地の中腹（標高900m付近）には緩傾斜の部分があり、今回の崩壊土砂と倒木の一部分が、その緩斜面上に残存している。崩壊土砂の大半はこの緩斜面を通過しており、大用知川を流下して大きな被害を出した。



写真6 加州地区の斜面崩壊の滑落崖（西山賢一撮影）

加州地区の斜面崩壊の滑落崖を直下からみた写真。地質は千枚岩（泥質、凝灰質）および片状砂岩からなる。崩壊地内部の側壁では、しばしば岩盤クリープによる地層の変形や、風化も加わって角礫状を呈する部分がある（写真7参照）。この斜面崩壊で流下した土砂により、国道193号線加州谷橋（橋長26m）が流出した。



写真7 加州地区の崩壊地内部（側壁）に見られる岩盤クリープによる変形構造（西山賢一撮影）

加州地区の斜面崩壊地の側壁には、しばしば写真のような地層の変形が認められる。ここでは、地層が斜面下方に向かって折れ曲がったような構造（座屈）が認められるほか、その上部は角礫化している。これらの変形構造は、地層が重力の影響によって長期間にわたって変形してできた「岩盤クリープ」によるものと推定される。

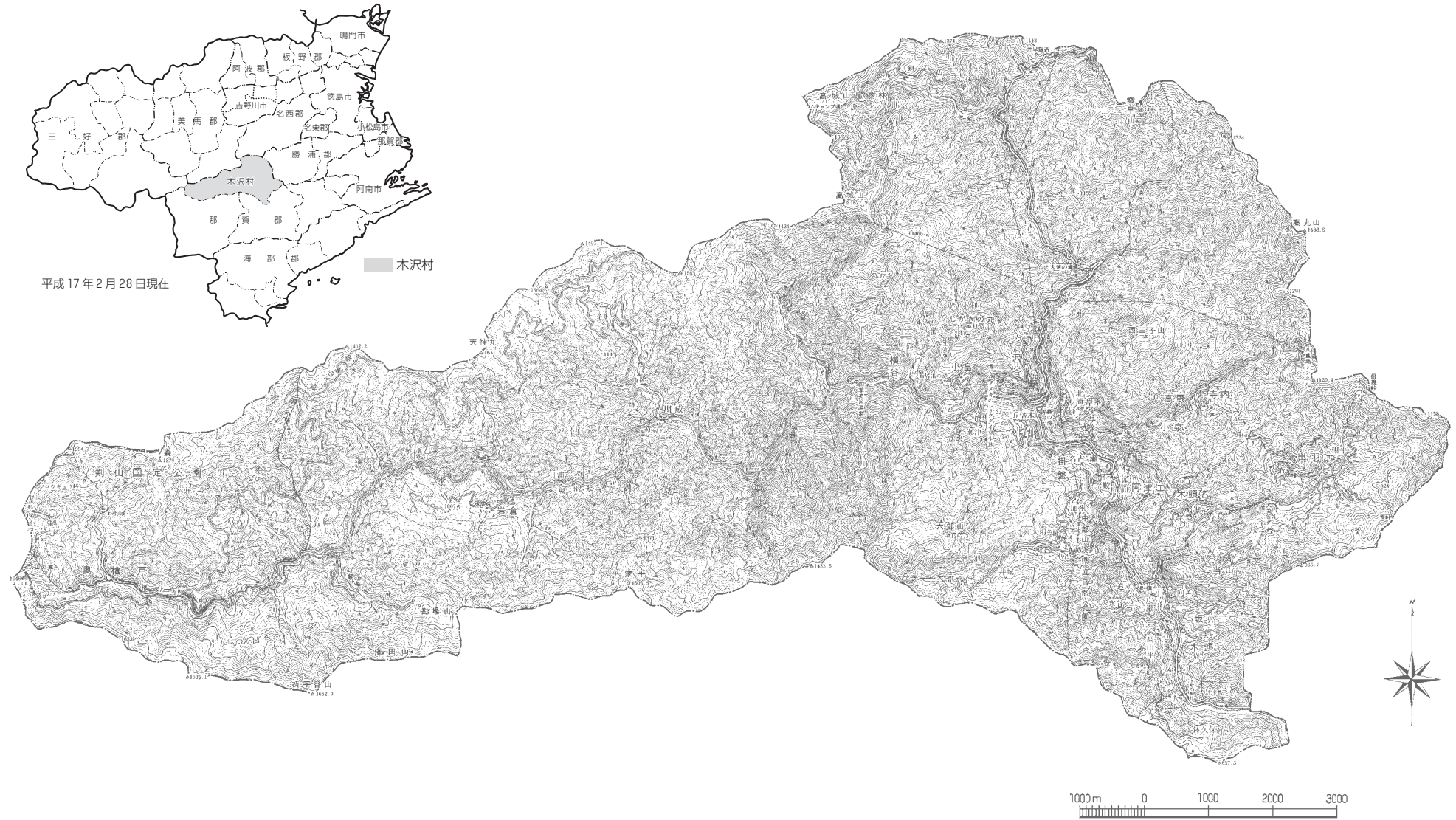


写真8 沢谷・嫁ヶ滝の斜面崩壊の滑落崖（西山賢一撮影）

沢谷・嫁ヶ滝の斜面崩壊の滑落崖を直上から見た写真。この地区の地質は、加州と同様に千枚岩であり、岩盤クリープや風化により脆弱化した部分が滑落している。この斜面崩壊で流下した土砂のため、県道木沢上那賀線の嫁ヶ滝橋（橋長10m）が流出した。

斜面災害の詳細報告は、本紀要に収録されている西山ほか（2005）の論文を参照のこと。

木 沢 村 全 図



平成 17 年 2 月 28 日現在

木沢村

地図は木沢村役場発行の「木沢村全図」（建設省国土地理院承認番号 平 9 四複、第227号）による。